

製品名: IRAK-1 (リン酸化 Thr209) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04866**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	77kDa

抗原情報

遺伝子名	IRAK1
別名	IRAK1; IRAK; Interleukin-1 receptor-associated kinase 1; IRAK-1
遺伝子 ID	3654.0
SwissProt ID	P51617
免疫原	抗血清は、Thr209 のリン酸化部位周辺のヒト IRAK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 175-224

背景

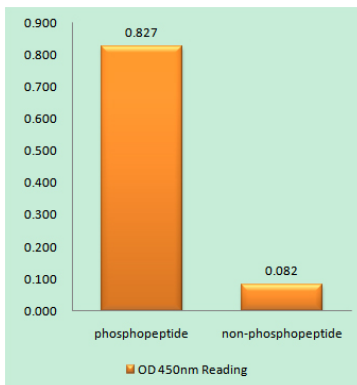
この遺伝子は、刺激によりインターロイキン-1 受容体 (IL1R) と会合する 2つの推定セリン/スレオニンキナーゼのうちの 1つである。

る、インターロイキン-1受容体関連キナーゼ1をコードします。この遺伝子は、IL-1誘導性転写因子NF-κBの上方制御に部分的に関与しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq提供、2008年7月]、触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。機能: IL-1の結合後にIL-1 I型受容体に結合し、細胞内シグナル伝達カスケードを誘導して転写の上方制御と mRNA の安定化をもたらします。アイソフォーム1は急速に結合しますが、その後分解され、アイソフォーム2がサイトカインに対するより緩やかな、より持続的な応答を媒介します。アイソフォーム2は不活性であるため、この酵素のキナーゼ活性はIL-1シグナル伝達に必要なわけではないことが示唆されています。IRAK1はリン酸化されると、アダプタータンパク質PEL1をリクルートします。PTM: IL-1RIへのリクルート後、IRAK4によって自己リン酸化またはトランスリン酸化されます。アイソフォーム1の場合、これはユビキチン化および分解に関連しています。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。Pelleサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: IL-1刺激は、PEL1の結合後にIL-1受容体から解離するシグナル伝達複合体の形成につながります。IL1RL1と相互作用します。IRAK1BP1と相互作用する。組織特異性: アイソフォーム1とアイソフォーム2は、調べたすべての組織で普遍的に発現しており、アイソフォーム1はアイソフォーム2よりも強く発現している。

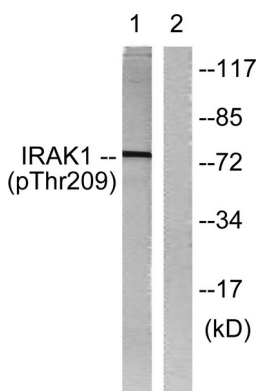
研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;Toll様神経栄養因子;

画像データ



IRAK1 (リン酸化 Thr209) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



IRAK1 (リン酸化 Thr209) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。